



第89号

January 2023

編集・発行

社会福祉法人  
沖縄県社会福祉事業團〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1  
TEL.098-884-3173 (代) FAX.098-882-5688✉ o.fukusi@okinawa-j.jp  
🌐 http://www.okinawa-j.jp/

宮古島の日の出

今年も課題山積からのスタートとなりますが、お互いが確かな人間力や福祉観を持ち「語り合い」「支え合い」ながら「強い組織作り」「信頼され選ばれる施設作り」を職員一同一丸となり取り組み、法人の使命である「利用者の人権を尊重し、安全・安心・快適なサービス」の提供に努めながら、地域のみなさまと「共生・協働」を心掛けながら地域に密着した福祉事業に取り組んでいきたいと思っております。

新しい年がより佳き年になりますよう心より祈念致しまして、年頭のあいさつとさせていただきます。みんなで心を一つにしてこの難局に立ち向かっていきましょう。今年もよろしくお願いいたします。

謹んで新年のお喜びを申し上げます。  
昨年は各施設におけるクラスターへの対応など大変な一年でした。それでもできる限りの努力を職員一同一致団結して対応した結果、最小限に収まつたと思っております。職員の皆様の頑張りに感謝いたしました。また、感染拡大の状況において、ご利用者様へのご家族の面会制限にご理解と協力頂いたことに感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大からほぼ三年。出口の見えない閉塞感を抱えている中で、原料価格の急騰による電気料金の高騰、生活用品、食材費の値上など、難題が山積しておりますが、まずはこうして無事に新しい年を迎えることができたことを感謝する気持ちだけは、大切にしたいと思つております。

**金城 敏彦**  
きんじょう とひこ  
理事長



新年のあいさつ







## セラピードッグがやってきた

介護  
主  
任

砂川 雅治



「犬が来るってね」「かわいいわんちゃんが来  
るの」「小さい犬」など、セラピードッグがやつ  
てくることを告知する掲示物を観て、数日前か  
ら利用者さんに話かけられ、とても楽しみにし  
ている様子が感じられ当日を迎えた。利用

者さんは早くから会場に集まり、外の様子をド  
ア越しに眺め到着を待ち望み落ち着かない様子  
で大型犬2頭・中型犬1頭・小型犬2頭がやつ  
てきました。最近までコロナ禍によつて施設な  
どへの派遣を中止していく、今回北嶺学園が派  
遣要請してくれたのをきっかけに、他施設から  
も派遣要請の連絡が入つてきていたとトレーナー

の方から話があり喜んでいました。セラピードッグも園到着からゲージの中で早く出してく  
れとソワソワしているように観え、ゲージから  
出ると「やつてやるぞ」と言わんばかりに軽快  
な足取りで利用者さんの前にやつてきました。  
始めはデモンストレーションが行われました。

災害救助犬は一人の利用者さんがテーブルの下  
に隠れる、おいで探し当てその場に座り吠  
えてトレーナーに知らせ、警察犬はにおいのつ  
いたタオルを複数ある中の一つの箱に入れて蓋  
をして隠すと、一つ一つ箱を嗅ぎ分けて探し当  
てる事ができ、利用者さんもすごいと驚いて  
拍手し喜んでいました。

ふれあい会では、小型犬をだっこして撫でる  
利用者さんもいれば、触るだけ・遠くから眺め  
るだけの利用者さんもいる中で、大型犬にも怖  
がる様子を見せず、触ったり撫でたり、また、  
一人の利用者さんは慣れた様子で中型犬のリリ  
ドを一人で持ち会場内を歩きだしていました。  
今回セラピードッグが当園にやつてきたこと  
によつて、利用者さん同士の会話や笑顔も観ら  
れ、コロナ禍での生活の中で少しでもストレス  
軽減や情緒の安定。安らぎの効果があつたので  
外泊しないかと感じました。来年は、制限なく外出  
ます。や例年通りの行事ができることを願つてい  
ます。

おもしろかった。  
警察犬の頭をなでたよ。  
シェパードが良かった。



### 栄養士のおすすめレシピ

#### 四角豆の白和え

##### 材料(4人分)

四角豆 ..... 10本  
島豆腐 ..... 150g  
(絹ごし・木綿でも可)  
ツナ缶(油漬) ..... 小1缶

##### 調味料

白すりごま ..... 大さじ3 醤油 ..... 小さじ1  
砂糖 ..... 大さじ1 塩 ..... 少々



##### MEMO

四角豆は近年「緑のカーテン」としても注目される野菜で、沖縄では「うりづん」の名でも親しまれています。栄養面ではたんぱく質が多く、抗酸化作用が強いカロテンやビタミンC、カリウムなどを含みます。軽い苦みはありますが、白和えにする事でお子様でも食べやすい一品になります。



特別養護・養護老人ホーム  
八重山厚生園 管理栄養士

ふくはら ともみ

福原 朋美

## 地域密着型通所介護の取組み



具志川厚生園  
生活相談員

仲村 幸子  
なかむら ゆきこ

具志川厚生園デイサービスでは、毎日約12名のご利用者様（平均年齢88歳、平均介護度・要介護2）が利用しています。長期化するコロナ禍の中、マスクとフェイスシールド、手指消毒など感染予防を徹底し、各テーブルに設定されたパーテーションにも馴れ日々の活動に取り組んでいます。

加齢に伴い歩行能力などの身体機能、認知機能低下など日々の変化はあります。が、手指の動作が鈍くなると杖や手すりを掴む握力低下、洋服のボタンを外す、ペットボトルのキャップを開けるなど日常生活に関する動作に大きく影響します。そこで、当デイサービスでは毎日、午後1時から「創作活動」の時間を設けています。アクリル糸や折り紙、絵の具、ハサミ等を使い目と手指の協調動作や手巧緻訓練を兼ね季節に応じた壁面作成に取り組んでいます。

今年は敬老の日を祈念してツルの絵をモチーフにした壁画を作成し、具志川厚生園の入り口に看板として設置しました。壁画作成の過程では、折り紙をちぎる、ハサミで切る、絵の具を塗るなどご利用者様のADL等に応じ各工程に取り組めるよう工夫しました。完成した壁画は9月に実施した敬老会で飾りつけ「具志川厚生園のハッピ」を着て記念撮影を行いました。ネイルとマイクアップをした撮影会はご利用者様に大好評でした。



敬老会終了後は当デイサービスの看板として門口の掲示板に設置し天気の良い日は歩行練習と車椅子操作訓練を兼ね、看板前まで散歩しています。送迎等で訪れたご家族からも「とても素敵なお看板ですね」と声を頂き地域の方にも喜ばれています。看板設置を機に利用者様同士感想を言い合うなどコミュニケーションのツールとしても活用しています。

【ご利用者様コメント】

「皆に見てもらってうれしい。これからもいろんな壁画にチャレンジしたい」（90歳女性・要介護3）

「ハサミを使うのが難しかった。家ではできないからデイサービスでは指を動かす運動になるので頑張りたい。」（80歳男性・要介護2）

## 就労継続支援B型の取り組み～ワイドーわれらが就労継続支援B型～



あけぼの学園  
管理課長

佐久田 政幸  
さくだ まさゆき

就労継続支援B型事業所あけぼのは、平成23年4月に事業所を開所し今年で11年目を迎えました。開所当初は、利用者も少なく、作業内容は農場で野菜を育て手探りの状態で活動をしていましたが、現在は利用者様12名、職員2名体制で活動を行っています。当時に比べ、作業内容も大幅に変わりました。

現在行っている主な活動は、ブーゲンビリア、ハイビスカス等の栽培、同法人内宮古厚生園、漲水学園の中庭、窓ガラス、トイレ等の清掃を始め、お土産品店の「Tシャツ包装作業」「黒糖粉碎やふるい作業」、宮古島市から市道清掃、公園等の委託清掃作業を行っています。他にも地域から清掃依頼を受けています。

【宮古島をもっときれいに】を合言葉に、利用者様はそれぞれの作業を一つひとつ丁寧に行っています。自分たちの力できれいになつていく地域の様子、自分たちが包装したTシャツを購入され、西里通りを楽しく歩くナイチャー（方言で県外の人）を想像しながら、日々やる気に満ち溢れています。また、委託・依頼を受けたかた、地域の皆様からも「道路がきれいになつたね」「草がなくなつて道路が通りやすくなつた」との声が聞かれるの

も、利用者の活動の糧になっています。日々の活動の他にも、毎月1回グランドゴルフ大会の開催や利用者の誕生パーティを行なうなど、リフレッシュを兼ねて和氣あいあいと行事を楽しんでいます。日々の活動も、事業所の行事も全力で参加している様子を見て、職員も一緒に楽しみながら支援を行っています。



（方言で頑張れ）

ドードー！ワイドー！（方



来所面談した  
児童と作った作品

子どもの貧困や児童虐待が社会問題となつて久しいですが、他にも発達課題、不登校、コロナ禍の学校休業中の過ごし方、ヤングケアラーの課題等、社会情勢の変化に伴い相談内容は多岐にわたります。

児童家庭支援センターはりみずは、平成24年8月、漲水学園に附置され開所しました。職員は、センター長（園長兼任）、相談員2名、心理療法担当1名です。

相談員は、子育てに関する相談を受け、関係機関と連携し子どもや家庭への支援に携わります。市の要保護児童地域対策協議会（要対協）にコアメンバーとして毎回個別支援会議に参加します。相談の主訴や子どもの様子によつては、心理療法担当へ繋ぐこともあります。また、児童相談所から委託された児童のケースについて、関係機関と連携・調整しながら、家庭訪問や来所により、子どもや保護者へ相談・面談等の支援を行っています。

他にも、里親支援機関としての役割も担つております。里親里子への相談支援や、里親サロンへの参加等を行っています。

近年、全国児家センの動きとして、アウトリーチ活動に重きが置かれる様になつてきました。社協のフードバンクや、全国児家センを通して子どもの食緊急プロジェクト、子ども達の宅食応援団等から食品を提供していただき、家庭訪問時に対象家庭に提供しています。令和4年児童福祉法の一部を改正する法律では、在宅支援のあり方に視点を当て、児童だけ

児童家庭支援センター（児家セン）

漲水學園

奥平久乃 おくだいら ひきの



宮古厚生園 特別養護・養護老人ホーム  
介護課長 すなかわ まさし

コロナクラスターを経験して

新型コロナクラスター発生状況下での利用者支援は、多岐にわたり非常に大変であった。陽性、あるいは濃厚接触者となつた利用者へのPPE着用しての食事、与薬、バイタルチェック、排泄、離床、臥床、清拭、着替え等の介護支援、汚れた衣類や使用後のオムツ、ディスポ容器処理、感染エリア内消毒作業抗原・PCR検査実施、ゾーニングに伴う居室変更等々。特にPPEを装着しての介護支援は、汗だくになりながら職員自身も感染しないよう注意するため、体力的、精神的にもキツイものがあった。しかし、感染エリア内外を問わずコロナに感染する職員が出るのは避けられず、感染者が数名出た場合の人員配置調整は時間を要した。また、利用者・職員で

昨年、沖縄県では、多くの福祉施設に於いて新型コロナクラスターが発生した。当園においても規範こそ違え3回の新型コロナクラスターが発生、その度に職員は、その対応に追われた。

1回目は、6月下旬から7月上旬までの間、養護で発生。2回目は、7月下旬から8月下旬までの約1ヶ月間、養護とデイサービスで発生。3回目が、9月上旬から10月中旬までの間、介護で発生した。

当時（昨年7月時点）の沖縄県内における新型コロナウイルスの新規感染者状況をみると、感染者が急増し、12日から1日あたり3千人を超える、17日は4千人超となり、全国ワーストを記録していた。

園職員は、日頃から生活面においては感染予防に努め、また、感染症対策委員会で決定された感染予防対策に基づき行動していたが、地域の感染拡大が収まらない状況下で新型コロナウイルスの施設内侵入を防ぐことは難しくもつづつ。園では、新型コロナウイルスの新規感染者が急増する中、园内の感染予防対策を強化し、感染リスクを最小限に抑えようとしている。

施設対策状況、職員対策状況や職員意見を基に、実施した感染対策について検討後、保健所職員から今回の感染対策における改善点やアドバイスを受けた。今後は、経験したコロナクラスターへ振り返りの内容を参考にし、暫くは続くであろう新型コロナ感染対策を進めていきたい。

コロナ感染が拡大していく状況下に身を置いた職員には、いつたい何時になつたらこのクラスターは収束するのかといった疲労感も感じられた。しかし、そのような中でも現場においては、勤務職員が少ないからと、自ら進んで利用者の食事や排泄介助等、時間外での勤務を引き受ける介護職員が少なくなく、利用者や同僚職員のため労を厭わず協力して頑張ろうという姿勢や雰囲気がみられた。さらに、介護員以外の事務所職員や栄養士、パート職員、清掃員も非感染エリアでの食事介助等、職員全員で手分けをして利用者支援に取り組んだ。

3回目のコロナクラスターが10月13日に終息し、約1ヶ月半が過ぎた11月29日、2名の宮古保健所職員も参加し、実施したコロナ対策の振り返りを行つた。そこでは、各部署から集めて、感染拡大状況、

有限会社オキツウ様より  
ご寄贈いただきました

12月6日、有限会社オキツウ様(奥平博明 代表取締役)より、会社創設50周年記念として空気清浄機の寄贈を頂きました。

有限会社オキツウ様へ心より感謝申し上げます。



# 施設だより



ここ三年近くコロナの影響で外出支援が出来ない状況が続いた、「外出したい」と言いつつも、「コロナだからね、仕方ないさあ」と諦めの声を聞くと、こんな状況の中でも施設内でできることはないかと考えていた矢先、素敵なお会いがありました。療育園で働いていた職員が大学でエイサーをしていることを知り紹介してもらったこと、北谷町美浜でストリートライブをしていた琉球大学のジャズバンドに出会い声をかけ施設での演奏依頼ができることが出来た。学生のみなさんもコロナで披露する場所がないと、施設と学生の悩みがマッチしていました。感染対策・打ち合わせを行い、11月に沖縄国際大学のエイサー「琉球風車」の演武。12月は琉球大学のモダンジャズオーケストラの演奏会を行う事が出来ました。エイサーでは太鼓の響きにチムワサワサ：締めは学生さんと一緒に楽しむ力チャーシーで笑顔。ノリノリで生演奏する学生たちに「ブランボーン」と、ジャズを楽しみました。「また、来て欲しい」と利用者からの声もあり、学生ボランティアとバイブルを作り、楽しみのある生活が思えます。今後も企画していきたいと思っています。



都屋の里  
管理課長  
宮里 美奈子

外出できなくても楽しめるある生活を「学生ボランティアの存在」



名護厚生園  
管理課長  
玉城 均

サーティアンダギーは笑う



サーティアンダギーの割れ目は、「笑う」「幸せ」を表しています。サーティアンダギーの割れ目のよう年来年も一年中「笑い」や「福」が利用者自身と家族のもとに届きますようにと願いを込めるながら、利用者みんなで食し楽しました。

今年はおやつバイキングと銘打ってケーキ、プリン、フルーツの盛り合わせ、利用者自身で作るわた菓子や、沖縄の伝統料理サーティアンダギー等をおやつに、利用者も嬉しそうな様子でした。

今年はおやつバイキングと銘打ってケーキ、プリン、フルーツの盛り合わせ、利用者自身で作るわた菓子や、沖縄の伝統料理サーティアンダギー等をおやつに、利用者も嬉しそうな様子でした。



今年で3回目を迎えたYUIマルシェ。よみたん救護園をイベント会場として、ハンドメイド作品が立ち並ぶ小物販売を中心とした催しです。私たちには今回、とうがんやからし菜・ゴーヤー、バジルの苗、陶芸・マーストラップ等の小物作品を販売しました。新たに簡単なパネルも掲示し、よみたん救護園の紹介も行いました。昨年の反省をいかし、もつと利用者の活動参加が増えるようにと、介護職員をはじめ、看護師や事務職も協力し、皆で取り組む雰囲気作りに努めました。各職種がそれぞれ、利用者と一緒に作品作りに取り組んだ結果、前回よりも売上金アップ。さらに、作品が売れることで喜びや達成感を感じ、「もっとやりたい」と利用者からの声も聞かれ、作業意欲の向上につながりました。

今年は、2歳児以上は、ホールでクリスマス一色となります。サンタさんは書いたお手紙や絵もポストいっぱいになります。今年は、サンタが登場し子ども達は大喜びでした。

今年で3回目を迎えたYUIマルシェ。よみたん救護園をイベント会場として、ハンドメイド作品が立ち並ぶ小物販売を中心とした催しです。私たちには今回、とうがんやからし菜・ゴーヤー、バジルの苗、陶芸・マーストラップ等の小物作品を販売しました。新たに簡単なパネルも掲示し、よみたん救護園の紹介も行いました。昨年の反省をいかし、もつと利用者の活動参加が増えるようにと、介護職員をはじめ、看護師や事務職も協力し、皆で取り組む雰囲気作りに努めました。各職種がそれぞれ、利用者と一緒に作品作りに取り組んだ結果、前回よりも売上金アップ。さらに、作品が売れることで喜びや達成感を感じ、「もっとやりたい」と利用者からの声も聞かれ、作業意欲の向上につながりました。



精神保健福祉士  
平山 啓子

「YU-MARシェに参加して」



子ども達の大好きなクリスマス。クリスマス会が近づくと、サンタさん来てくれるかな? プレゼント持ってきてくれるかな? 子どもたちは、クリスマス会を楽しみにしています。玄関には、大きななツリーが飾られ、クラスには子どもたちの作った、靴下やリース等でクリスマス一色となります。サンタさんは書いたお手紙や絵もポストいっぱいになります。今年は、2歳児以上は、ホールでクリスマス会を行いました。職員によるパネルシアターやサンタパペット等を見た後、サンタが登場し子ども達は大喜びでした。

子ども達の大好きなクリスマス。クリスマス会が近づくと、サンタさん来てくれるかな? プレゼント持ってきてくれるかな? 子どもたちは、クリスマス会を楽しみにしています。玄関には、大きななツリーが飾られ、クラスには子どもたちの作った、靴下やリース等でクリスマス一色となります。サンタさんは書いたお手紙や絵もポストいっぱいになります。今年は、2歳児以上は、ホールでクリスマス会を行いました。職員によるパネルシアターやサンタパペット等を見た後、サンタが登場し子ども達は大喜びでした。



にしのもり保育園  
主任  
仲盛 久美

クリスマス会





## 職員の語らい

私と辯喜のお話

うるま婦人寮  
寮長

大嶺利昭

私の中学生時代、囲碁の虜になつた友人がいました。その頃のダンパチヤー（散髪屋）は、どこのお店でも數量ほどの座敷があり、囲碁盤が置かれ、お客様でチバチと囲碁を楽しむのどかな風景がよく見られました。

彼と町を歩きながら、その光景に出くわしたが最後、店の窓からその様子をのぞき込み、その場から中々離れようとしません。その場所から彼を引き戻すのに大変難儀したものです。

好きこそ物の上手なれとはよく言つたもので、高校生の時には県代表として全国大会に出場するほどの実力の持ち主でした。その影響からか私も囲碁を自然と覚えるようになりました。

当時は嫌々のところもありましたが、彼に導かれ数多く打つていいうちに、そこそこ実力もつき、楽しみを覚え自ら碁会所に通うようになりました。

碁会所での月一回の定例会や泡盛を酌み交わしながらの囲碁談義は、まさに至福の時がありました。

今は以前ほどのエネルギーも失せ、せいぜいネットで碁を楽しむ程度ですが、ボケ防止の一環としてこれからも楽しんでいきます。



感じてきた。逃げたくなる練習の中でも仲間と切磋琢磨し合い勝利や優勝した時は何倍にも喜びを分かち合える。また、たった一つのボールで多くのサッカーファミリーと繋がる事が出来るのが最大の魅力である。

来年の県民体育大会開催地は宮古島・・・神の子のような豪快なシュー！トとフットワークでチームに貢献し地元初優勝を飾りたい。絶対に！

僕たちがもので、  
好きこそ物の上手なれとはよく  
言つたもので、高校生の時には県  
代表として全国大会に出場するほ  
どの実力の持ち主でした。その影  
響からか私も開幕を自然と覚える  
ようになりました。

2022 FIFAワールドカップ、36年ぶり優勝アルゼンチンの司令塔メッシ選手（神の子）の豪快なシュート余韻に浸された中、私自身も11月に開催された第74回沖縄県民体育大会サッカー競技の部で、宮古代表ディエンダー選手として大会に出場した。予選リーグ2試合中2引き分けで決勝トーナメントに勝ち上がれず悔しい気持ちではあつたが、3年ぶりの代表選出と大会が開催された事に感謝と喜びを感じた。

サッカーに魅せられて

漲水學園  
兒童指導員  
與那霸和八



息子と一緒に

沖繩療育園  
事務員

新垣 裕之

4歳になる息子の成長を感じる日々この頃、1歳の誕生日に早いと思いつつ足漕ぎ自転車を購入して早や3年。最初は自転車にまたがり立つこともままならなかつたのに、徐々に歩けるようになり、小走りになり、今では短い坂なら足を着けずに颯爽と駆け降りてくる。

いしみね救護園  
事務員

安座間翔

4年後の  
新しい景色

右指して

今回のワールドカップ観戦で、私自身も学生の頃サッカーをしていました。学生を卒業してから長い期間、運動不足や不摂生の時を経て、健康診断でも結果をドキドキするようになりました。これを機に運動を始め、少しでも昔の体型に近づけたいと思いつつも4年前も同じ事を思つた記憶があります。私にとつては日本代表のベスト8より高い壁ですが、次の4年後ワールドカップ開催時には新しい景色を見られるよう頑張りたいと思います。

最初の頃は自転車は乗ったが息子は歩いて追い越せる程度の速度だったのに、今では「お父さん遅いから早くおいで」と言われる始末。息子が飽きるまでエンドレスに小走りで追いかける気力も体力も無い36歳。ならば一緒に遊びつつ、かつ息子が不満にならない速度で追いかけることのできるスケートボードを始めようと思いつき衝動買い。これで問題解決だと思いきや、今まで乗ったこともないスケートボード。へっぴり腰でボードの上に乗ることもままならず、息子に追いつくどころか離される一方。「お父さん遅いから早くおいで」早々にスケートボードを手に小走りで追いかけるのでした。

4年は一度のサッカーの祭典  
ワールドカップがアルゼンチンの優勝で幕を閉じました。今回のワールドカップは試合開始時刻が深夜からという試合も多かつたので、見ない試合や途中で寝てしまい翌日朝のニュースで結果を知るということも多かったです。ですが、日本戦は全ての試合をライブで観戦しました。普段は淡々と観戦をする私ですが、日本代表のドイツ戦の同点・逆転ゴールでは興奮し、思わず小さくガッツポーズをしました。そんな私に私自身がピクリました。

今回のワールドカップ観戦で、自身も学生の頃サッカーをしていましたが、体を動かしななりました。学生を卒業してから長い期間、

いしみね救護園  
事務員

安座間翔

A portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a dark blue polo shirt. He is looking slightly to his right. The background is plain white.